

高林白牛口二の謡を聴く会

第一部

おはなし

高林白牛口二

第二部

老松

高林白牛口二

富士太鼓

高林呻二

花筐

安福光雄

鶴

高林昌司

主催 高吟会

令和2年 11月27日(金) 午後6時始 十四世喜多六平太記念能楽堂(喜多能楽堂)

● 入場料(全席自由席) ¥4,000均一

※当日、老松の謡本を販売いたします。

● お問い合わせ

※チケットはお電話、メール、ホームページからご購入いただけます。

【高吟会】

E-mail : koginkai@ares.eonet.ne.jp

http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/

TEL : 075-462-1490 FAX : 075-463-3494

〒603-8354 京都市北区等持院西町15

【喜多能楽堂ホームページ チケット購入ページ】

http://kita-noh.com/ticket/



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9 TEL : 03-3491-8813

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに
目黒駅下車徒歩7分

第八十八回 喜多流 涌泉能

令和二年十一月二十七日(金)

第十回 高林白牛口二の謡を聴く会

午後五時半開場

動静以天地
視哉涌泉美
鈿之翁

第一部 午後六時始

おはなし 私の強吟について 高林白牛口二

休憩(十五分)

第二部 午後七時始

一曲独吟 老松 高林白牛口二

仕舞 富士太鼓 高林 呻二

一調 花筐 高林白牛口二
安福 光雄

仕舞 鶴 高林 昌司

附祝言

終了予定 午後八時半

主催 喜多流 高吟会

(仮説) 強吟の分類

高林白牛口二

今まで少なくとも喜多流の中で強吟の謡い方を分析されたものは存在しなかったと思います。私が「百年前の謡」を謡うことを試みている内に思いついた事を全く自己流に分析してみようと思いいちました。爰に展開している論説は文献的には何の根拠もないものです。私が謡っている謡を自分の思いつくままに分析したものです。そのつもりで読んで下さい。

強吟の謡方は一通りではありません。和吟のように洋楽にも通ずる音階とは全く異次元の謡い方をします。それをいくつかに分類してみようと思えます。

分かり易いように五種類に分類します。この命名は私の独断的な命名です。謡い方の分類は直截的に区切られているわけではありません。入れ混じっていますので分かり難い事もあります。

一、祝言調(しゅうげん)

強くさらりと滞る事なく謡います。

二、修羅調(しゆら)

修羅物の気負いで謡います。

三、平ら調(たいら)

比較的平板に謡います。

四、闌曲調(らんぎよく)

強吟の中では取り分け上下の音階を謡います。

五、祝詞調(のりと)

闌曲調よりももっと柔らかく謡います。

これとは別に翁の祝詞(特に「信(マコト)の調子」と云う)があります。翁の祝詞は前項の祝詞調よりもさらに柔らかく独特の謡い方です。古代の雰囲気を彷彿と醸し出すように謡います。

この内で四と五が現在の喜多流を含めて能楽界全体より失せつ、あります。百年前の謡の復元の一番の目的はこの闌曲調の謡を残すことにあるのです。この闌曲調・祝詞調は意外にも勸進帳や起請文にも必要な謡い方です。強みと柔らかみが絡み合って謡わなければなりません。この柔らかな謡い方が進化して和吟の謡い方が出来たのではないかと云う気もします。今回の「老松」はこの闌曲調の謡い方を聞いて頂くために選曲しました。高砂の曲でも謡いますが「老松」の方が曲の全体が静寂な曲ですので分かり易いと思つて選びました。

来春の予告

令和三年 四月十日(土) 午後二時始

第八十九回 涌泉能 於 京都 大江能楽堂

仕舞 忠度 高林 呻二

一曲独吟 定家 高林白牛口二

能 春日龍神 高林 昌司

令和三年 六月十八日(金) 午後七時始

第九十回 涌泉能 於 東京 喜多能楽堂

(第十二回) 高林白牛口二の謡を聴く会

一曲独吟 盛久 高林白牛口二

他に仕舞・一調